



田代小だより

令和8年1月30日

児童数138名

愛川町立田代小学校

発行責任者 栗根 幸子



第10号

「私たちの田代小、私たちで創ろう！」

立春を目前に控え、寒さの中にも少しずつ春の足音が聞こえてくるようです。校庭の銀杏の木も、厳しい冬空の下、次なる芽吹き準備を静かに進めています。先日は学校評価アンケートへの多大なるご協力、誠にありがとうございました。保護者の皆様、子どもたち、そして職員から寄せられた「本音」をじっくりと拝読しました。そこには、本校への愛情と、「もっとこうなればいいな」というワクワクするような願いが溢れていました。皆様の「田代小学校への想い」を繋ぎ合わせることで、来年度に向けて進むべき「道」が見えてきました。

■ 私たちの「現在地」：認め合い、支え合う温かな絆

まず心に響いたのは、三者（保護者、子どもたち、教職員）が共通して、今の田代小を「温かい場所」だと感じていることです。

- ◆保護者の皆様：「学年を越えて兄弟のように仲が良い」「先生との距離が近く安心できる」
- ◆子どもたち：「1年生から6年生までみんな優しい」「銀杏の木が綺麗でみんなと仲良く遊べる」
- ◆教職員：「子どもに真っ向から向き合っている」「地域全体で、共に育てる雰囲気が出てきている。」

この「安心感」こそが、私たちの揺るぎない土台であることを再確認しました。

■ これからの「目的地」：優しさを「勇気」に変え、自分たちで創り出す

今の温かな土壌があるからこそ、三者で一致した「次の願い」も見えてきました。

- ◆保護者の皆様：「意見をハキハキ言える、主体性のある子に」「失敗を次につなげる経験をさせたい。」
- ◆子どもたち：「みんなのルールを変えたい」「自分たちでイベントを企画したい」
- ◆教職員：「自ら考え、意欲的にコミュニケーションをとる子に」「児童主体の活動を充実させたい」

誰かに言われて動くのではなく、子どもたちが自らの手で「楽しい」を創り出していく。そんな「主体性」を育む場を、これからの田代小ではさらに大切にしていきます。

■ 「みんなが創り手」の学校へ

アンケートの記述の中に、「自分もOK、みんなもOKな学校」という言葉がありました。子どもも大人も、田代小に関わる全員が「自分らしく、ここにいていいんだ」と安心できるからこそ、一歩踏み出す勇気が湧いてくるのだと思います。

「私たちの田代小、私たちで創ろう！」

皆様からの「もっと！」というエールを力に変え、次年度への確かな一歩を全校一丸となって踏み出していきたくと思います。現在、校長室には「田代小をもっともっとOKにするために、やってみたいこと」コーナーがあります。教職員と子どもたちの声を、付箋で集め、ぺたぺたと貼っています。今年度は残り2か月。みんなで田代小を創っていくために、できることからスタートさせていきたくと思います。

